

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

Our Life 152号

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
NPO法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884
静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
編集委員
藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

* 内 容 *	➤ 2024年度「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証事業助成決定…………… P.1
	➤ 2024年度「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証事業助成決定…………… P.2
	➤ 2023年度 静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業経過報告 ⑤-2 …………… P.3
	➤ 「29年目の活動の方向性」「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4



「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）支援事業 2024年度「若者発 ご近所福祉かるた」による ご近所福祉検証事業助成決定

地域コミュニティへの住民の参加の希薄化傾向が伺える中、加えて、長引く、コロナ禍下で、これまでの地域活動が十分にに取り組むことが出来ない状況が、ここにきて、少しずつ地域環境に明るい兆しが伺えるようになった。こうした社会の動きの中で、本会は、これまで、平成20年度から平成26年までの7年間にわたる県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」を通じて、高齢者の孤立・孤独防止事業に取り組み、多くの若者が、長寿者訪問型研修会で、ご近所のふれあい・ささえあいこそ重要な解決策と高齢者から学びあった。

延べ24回、243名の若者からでた400の意見から、世代を超えたご近所を学ぶ教材として、2015年度（平成27年度）県共同募金・広域福祉活動助成事業により、「共創社会実現研究会」を設置し議論を重ね、「若者発 ご近所福祉かるた」の創作と地域学習における活用事業で「若者発 ご近所福祉かるた」誕生した。 幼児から大人まで、世代を超えて、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として「見える化」「わかる化」の工夫をし、楽しみながら安心して暮らし合う生活圏域づくりをめざすことができるように地域福祉教育教材として5年間が経過した。 その後、「ご近所福祉その意識と実態調査」の調査結果から、改めて、高齢者（長寿者）の社会参加、集まる居場所の活性化、学校教育と社会教育の融合による課題等が浮き彫りになり、2021年度（令和3年度）、静岡県共同募金会助成事業「若者発 ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」により、「かるたの増刷」（再版100セット 合計200セット）と、「かるた」の有効活用を目的に、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引きの作成」を作成した。 今日、児童福祉領域（学童保育）や、学校教育領域（特に、コミュニティスクール事業関連）をはじめ、世代間交流の領域、高齢者の教養研修の場、社会教育領域（地域講座）等、県内各地から、「かるた」提供の問い合わせがある。 赤い羽根共同募金活動を住民に身近に呼びかけることができることから、「かるた増刷」（三版100セット 合計300セット）の必要性とともに、これまで「かるた」を利用した、各種団体からの「活用レポート」（報告）と、改めて「活用状況調査」を実施し、活用実績（報告）を取りまとめ「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成し、「かるた」の有効活用を働きかけるとともに、「ご近所福祉」をさらに推進するため、2023年5月15日に申請し、令和6年3月13日に、2024年度助成事業として決定、3月28日 助成交付及び説明会出席した。



●事業の展開と具体的な取り組み

- (1)これまで「かるた」を提供した地域・領域以外から、寄せられて「かるた提供希望先」に、活用の具体的な内容について、状況把握をする。
- (2)これまで「かるた」を提供した地域・領域から寄せられた「活用レポート」〔報告書〕を取りまとめるとともに、改めて、「活用状況調査」を実施し、地域の現状と課題を明らかにする。
- (3)本会と協働関係の「焼津福祉文化共創研究会」をはじめ、本会の活動に協力をいただいている各団体からの意見をもとに、「かるた」の配分及び「活用事例集」の編集協議を進める。
- (4)本会に設置する「共創社会実現研究会」（本会会員と地域で実践している実践活動者等）において、

これまでのかるたの活用状況を報告しながら、「活用事例集」の企画骨子を議論していただき、編集作業及び配布先の検討をし、より地域に密着した「かるた」及び「活用事例集」の有効活用に努める。

(5)「かるた増刷」については、印刷業者との連携を密にして、助成事業として有効活用できるように、印刷工程を円滑に進める。

事業の着眼項目として、「ご近所福祉の理解を深めるため、かるた及び活用事例集の有効活用を配布先に周知する。」「若者発 ご近所福祉かるたの誕生の経緯はどこかを問いかける。」「活用事例集の編集の工夫。」(①領域別：福祉施設、サロン、学校、地域、児童、大人、世代間交流)(②ニーズ別)

(③46枚のかるたの内容説明、活用報告用紙挿入)

「かるたから、地域ニーズの分別工夫(高齢者福祉、児童福祉、環境、教育、家庭、災害、防犯等)」「かるた」の活用事例を定期的に紹介(季刊誌、ブログ等)」「定期的に、かるたの活用状況把握」

■焼津福祉文化共創研究会との協働による「共創社会実現研究会」開催(全8回)

地域社会の現状を把握し、計画に基づく「若者発 ご近所福祉かるた」による地域学習状況を把握し、「地域の支え合い」をまとめる調査実施の協議を深めるとともに、円滑な事業展開をする目的で、専門性と市民性を融合した住民主体を基本に、本会会員、協働団体会員及び、本事業に関心を持つ関係者の自発的な参画による構成をもって運営する。設置期間と研究会開催日と協議内容は、概ね下記の通り。

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	4月 13日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識① 調査実施協議(調査実施要項・調査個票) 調査配布計画
第2回	5月 11日(土)18:30 北川原公会堂	地域の現状認識② 調査票配布状況 調査票回答状況①
第3回	5月 25日(土)10:00 静岡市清水区	地域の現状認識③ 調査票回答状況②
第4回	6月 8日(土)18:30 北川原公会堂	調査票回収状況③ 調査票集計作業① 協働の課題
第5回	7月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査票集計作業② 調査票考察作業① 活用事例集編集①
第6回	9月14日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集編集②
第7回	11月 9日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集発行及び配布先検討
第8回	12月14日(土)18:30 北川原公会堂	事業総括

■「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成

「地域総合型学習」として、幼児から大人まで、身近な地域における実践活動の場や行事の中で楽しみながら活用し、安心して暮らそう生活圏域づくりをめざす取り組みを検証する。関係機関・団体との「協働」により、これまでに個人、地域実践者、施設・グループ・サロン等に配布・設置した「かるた」の活用状況を把握(調査)し、教育と福祉の融合を視点に「活用事例集」(仮称)を作成し更なる「ご近所福祉」を推進する。

◇仕様：A4版 表紙及び裏表紙 カラー印刷 本文 カラーページ8P 白黒ページ32P 計40P

◇作成過程 *事業起案時期 令和6年4月 *活用状況調査期間 令和6年5月 *事例集編集・印刷発注期間 6月～10月 *公表・配布 11月

■「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷(100セット)と配布

*取り札 カラー4/4色印刷 絵札 カラー4/1色印刷 100セット

*配布については、県内の東部、中部、西部を均等に配布検討 サロン活動・学童保育、さわやかクラブ(老人クラブ)、コミュニティ組織(実践地区)学校教育、社会教育、福祉施設・包括支援センター、地域実践者等を検討するが、細部は、「共創社会実現研究会」において協議の上決定する。



*これまで、「若者発 ご近所福祉かるた」を活用して、ご近所福祉を学び合った、各地で取り組みの記録から

「第220回委員会」(3月30日開催)で、2023年度を振り返る

各地から、「私にとって“ご近所”とは 中学生の意識と実態調査報告書」の反響届く

協働団体・焼津福祉文化共創研究会の全面的な連携により、ここに、2023年度(28年目)の福祉文化実践活動がほぼ、計画通りに実施できた。常に、本会の活動の原点をしっかりと確認していきたい。

「日本福祉文化学会」から、静岡県内で「第11回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受け、阪神淡路大震災発生1年後(1996年3月)、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を21世紀の礎に」を掲げて、「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」をテーマに、全国各地から400名余の参加者と熱く語り合った思いを形にしようと、「災害と福祉文化」を追求する「地方発福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として1996年9月に結成した。そして、事務局を静岡市においてため、即、静岡市ボランティア連絡協議会に加盟をした。

「地方発福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合の関わり」「公開型地域総合型学習による理論と実践」「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。さらに、「3つの柱立て」(調査研究活動・公開型研修会・現場検証)を基に、具体的な福祉文化実践活動に取り組んだ。

厳しい社会状況下で、本会の主要な活動・調査研究活動では、28年間で初めて、中学生対象の調査に取り組んだ。コロナ禍下、猛暑の時期、日常的に中学生との接点がないこと、社会全体に、地域問題の意識の希薄化が顕著と受け止めること等、予想通り、これまでの回収率を大幅に下回る厳しい結果となったが、県内の地域実践者、福祉施設の協力で、尊い351名の中学生からの回答をいただいた。

静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業(20万円)の活動財源により、計画通りの展開が出来た。「調査報告書」は、静岡県社会福祉協議会の協力をいただき、県内全市町社会福祉協議会宛に配布するとともに、調査に全面的に協力をいただいた、福祉施設をはじめ、地域実践者、本会と協働活動団体、関係機関・団体等に200部配布することが出来た。主な配布先は下記の通り。

No.	配 布 先	配布数
1	静岡県社会福祉協議会	2
2	静岡県関係行政機関	10
3	協働団体(焼津福祉文化共創研究会)	10
4	関連団体(日本福祉文化学会)	4
5	調査協力団体・実践者	67
6	静岡市V連絡協議会(本会加盟団体)	6
7	静岡県コミュニティづくり推進協議会	1
8	静岡県内市町社会福祉協議会・関連福祉施設	65
9	マスコミ各社	10
10	研修会参加者等	25
合 計		200

●「報告書」の反響……お礼とともに、本会に寄せられた手紙、メール、電話等から

- *精力的に、時代に即した継続した調査活動は意義ある。そこに、福祉文化が秘められている。
- *このパワーで、再度、静岡県で、学会全国大会を開催してはどうか。(大学関係者)
- *主人が、昨年11月に他界した。調査報告書が送られてきて、改めて、主人の地域貢献活動を再認識した。(長年の地域実践者の奥様)
- *福祉施設として、要請に基づき調査に協力したが、こうして「調査報告書」が届き、今後の中学生の福祉体験の受け入れに、報告書を大いに活かしていきたい。(施設長等3施設)
- *「かるた」が、いろいろなところで、10年も引き継がれて活用されていることを再確認した。
- *改めて、貴会が、28年にわたり、福祉文化実践活動に取り組み、各種の情報提供をしていることに感謝する。(地域実践者8名)
- *引き続き、貴会からの情報提供を楽しみにしている。引き続き交流を希望する。(他県関係者)
- *施設でかるたを活用したい。かるたを提供してほしい。(施設法人理事長)
- *長年の調査研究活動は、意義ある取り組み(県職OB2名)
- *単独老人クラブ活動に、中学生(孫)の意見を活かし、今後のクラブの活動活性化に活かしたい。

■事務局日誌拝見(2/17~4/13)

月/日	経過記録
2/17	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「第219回委員会」開催 ➤ 「第2回公開型研修会」(助成事業調査報告研修会)開催
2/24	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「第10回共創社会実現研究会(調査部会)」開催(調査研究事業総括) ➤ 本日、ブログアクセス件数 435件
2/25	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「OUR LIFE151号」編集作業 発行 メール送信・配布
2/26	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 菊川市会議にて、調査に関する説明実施
2/28	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 沼津市会議にて、調査に関する説明実施
3/06	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県社会福祉協議会より、33市町社会福祉協議会宛「調査報告書」発送した旨の連絡有 ➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「助成事業実施報告書」を焼津市社会福祉協議会に提出 研究会自費発行調査報告書50部(80P)作成 ➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「調査報告書」配布計画に基づき配布作業
3/08	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県社会福祉協議会へ「静岡県社協ふれあい基金助成事業実施報告書」提出 ➤ 菊川市会議において、調査について説明する
3/12	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本日で、計画に基づき「調査報告書」の発送作業を完了する
3/13	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県共同募金会より、メールで「2024年度助成事業交付決定」の連絡有 ➤ 静岡新聞社による「調査報告書」の取材有(3月17日掲載)
3/14	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「第60回(3月)焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催(今年度事業総括、2024年度事業計画協議)
3/23	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 協働団体・焼津福祉文化共創研究会「通信第55号」編集・発行・送信・配布 ➤ 静岡県共同募金会主催「2024年度助成事業交付式及び説明会」出席
3/28	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡県コミュニティづくり推進協議会会議にて、調査について説明する ➤ 「第220回委員会」開催(今年度事業総括、2024年度事業計画協議)
3/30	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 静岡福祉文化を考える会「調査報告書」を配布計画に基づき配布作業 ➤ 会員宛「2024年度全体会」開催通知発送
4/10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「OUR LIFE152号」編集作業 発行 メール送信・配布
4/13	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 10:00 静岡市地区V連総会(静岡市) 午後 全体総会(清水区)

2024年度 第1回 静岡福祉文化を考える会 公開型研修会(会員全体会)ご案内 ご近所福祉”これまでとこれからを語る *ぜひ、ご参加を!(054-624-1924 平田まで)

- 開催日時 令和6年 5月25日(土) 13:30~15:30
- 開催会場 静岡市清水区追分 「寄ってっ亭」
- プログラム ① 基調報告「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証する
② ワークショップ「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、2024年度は、29年目の福祉文化実践活動の取組になる。

長らく、厳しいコロナ禍下だからこそ、「福祉文化」を問いつつ、さらに「静岡発 福祉文化の創造」に、関係機関・団体等との協働で、身近な福祉問題を広く公開型で学び合う。特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員は、地域社会全般の課題解決に向けて、市民の視点で活動をしている。

ご一緒に「福祉文化」を議論しませんか。

◆ブログで活動を発信中。関心のある方は、お問い合わせ下さい。

■会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円

■問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

振り返ってみると、2023年度の活動は、長らくコロナ禍下と猛暑の中での活動となり、果たして、計画通りに活動が展開されるか、大いに不安を抱えながらの取り組みとなったが、本会に長年協力していただいている地域実践者をはじめ、福祉施設関係者のご理解とご支援により、成果を上げることが出来た。県社協ふれあい基金助成事業により、県内各方面に福祉文化を発信できた。

29年目の2024年度も努力したい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



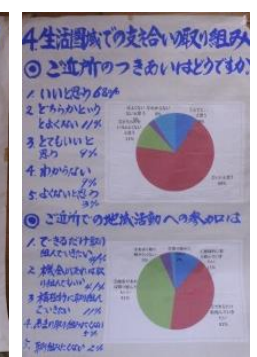
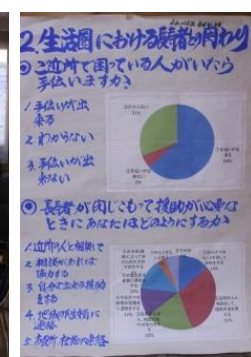
静岡福祉文化を考える会QRコード

2024年度 静岡福祉文化を考える会 第1回 公開型研修会開催 “ご近所福祉” これまでとこれからを語る

- 着眼項目 (1) 世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論（「生活会議」）をする場
(2) 「静岡発 福祉文化の創造」28年間の歩みから、地域課題を検証する場
(3) わたしのご近所を検証する場
(4) ご近所福祉のこれまでとこれからを語り合う場
(5) 誰が“ご近所福祉”を創るかを語り合う場

● 令和6年5月25日（土） ● 静岡市清水区追分 「寄ってっ亭」

●プログラム 13:30 開会 ＊開会挨拶 ＊オリエンテーション
13:50 基調報告「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証
14:30 休憩
14:40 ワークショップ「若者発 ご近所福祉かるた」で、私の地域を検証
15:30 閉会



Our Life 153号

〒424-0841 静岡県清水区追分3-5-17
NP0 法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884
静岡県福祉文化を考える会 代表 平田 厚
編集委員
藤下品子 古屋貴彦 河野康介 平田 厚

- | | |
|---------|--|
| * 内 容 * | ➤ 2024 年度赤い羽根助成事業 “若者発 ご近所福祉かるた” 活用状況調査開始…………… P.1 |
| | ➤ “ご近所福祉” これまでの調査を基に、第 1 回公開型研修会開催…………… P.2 |
| | ➤ 「ご近所福祉検証期」までのプロセスを探る ご近所福祉こそ“福祉文化”…………… P.3 |
| | ➤ 「第 2 3 回静岡景福祉文化研究セミナー案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」…………… P.4 |

2024年度「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）助成事業
“若者発 近所福祉かるた” 活用状況調査開始

本会は、これまで、平成20年度から平成26年までの7年間、県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」で、高齢者の孤立・孤独防止事業に取り組み、多くの若者が、長寿者訪問型研修会で、ご近所のふれあい・ささえあいこそ重要な解決策であることを高齢者から学びあった。

延べ24回、243名の若者からでた400の意見をもとに、世代を超えたご近所を学ぶ教材として、平成27年度赤い羽根助成事業「若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」により、「共創社会実現研究会」を設置し議論を重ね「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生し、県内各地で、ご近所の支え合いの学び合いに活用された。

5年が経過した令和3年度、改めて、高齢者の社会参加、集まる居場所の開拓、学校教育と社会教育の融合による課題等が浮き彫りになり、赤い羽根助成事業「若者発 近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育開拓事業」により、「かるたの増刷」（100セット）と、「かるた」の有効活用を目的に、「若者発 近所福祉かるた利用の手引き」（写真下）を作成した。

世代間交流領域、高齢者教養研修の場、社会教育領域等、県内各地から、「かるた」提供の問い合わせを受け、令和6年度赤い羽根助成事業「若者発 近所福祉かるたによる近所福祉検証事業」として、「かるた増刷」（100セット）これまで総計 300 セット作成）と「かるた活用事例集」（200 部）発行が認められた。

「かるた活用事例集の発行」に当たり、協働団体：横浜福祉文化共創研究会及び地域実践者による「共創社会実現研究会」（8回開催）を4月に設置し、これまでかるたを配布提供した各種団体、福祉施設、地域実践者等に、「かるた活用状況調査」を実施をすることとした。

共創社会実現研究会は、既に3回開催し、調査の目的、調査実施要項・調査票等協議を重ね、5月上旬に調査依

6月末までに、調査結果をまとめるとともに、「かるた活用事例集」に、國有の紹介ではなく、個人・一般の種別・領域別等を基に編集をし、11月の発行を目標に取り組み、今年度増刷する「若者発 近所裡社かるた」(100セット)の配布計画については、共創社会実現研究会において、これまでの配布提供実績を基に、さらに、各領域・地域等を検討し、配布の具体化につなげる。

11月30日に開催する「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」において、「かるた活用事例集」の公表とともに、かるたの活用について紹介をする。



作成した年度計画に基づき、総務課長が各課室長に指示を出すという流れで、



世代を超えて、かるたで2世所の今とこれからを学ぶ研修会



「かるた語用状況調査回答
内容QRコード」

2024年度 第1回公開型研修会（全体会）開催
これまでの調査を基に“ご近所福祉”を参加者とともに大いに語る

本会は、「静岡発 福祉文化の創造」を発信続けて29年目の活動に入る。

日本福祉文化学会が設立して、6年後に、学会の要請を受けて「第11回日本福祉文化学会現場セミナー」を静岡県で開催し、その翌年に「静岡福祉文化を考える会」が誕生した。

今日まで、3つの活動基調（「専門性と市民性の融合」「理論と実践の融合」「プロセス重視」）を基に、さらに、3つの活動の柱（「啓発学習」「協働による地域を校証」「地域を知るための調査研究活動」）に沿って、今日に至っている。

なかでも、「調査研究活動」は、県民の皆様のご支援により、本会の中心的な取り組みとして、28年間継続している。

今年度の活動テーマは、2013 年度(平成 25 年度)から、地域福祉教育教材の開発として取り組み、2015 年度(平成 27 年度)「若者発「近所福祉かるた」の誕生につなげたプロセスを基に、「見える・わかる「近所福祉」こそ福祉文化」を掲げた。

5月25日(土)に、研修テーマ:「ご近所福祉」これまでとこれからを語る」を基に:静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で、第1回公開型研修会(全体会)を開催した。

基調報告：「これまでの意識と実態調査」から、ご近所を検証するでは、前述のこれまで取り組んできた調査結果から、大人、子ども高齢者、中学生対象の調査からみえた「ご近所」を基に、議論をした。

- 児童から見た「ご近所」は・・・(2021 年度：461 名の児童対象調査)
 - *自分の地域は住みやすい地域である92%の回答。近所づきあいがよい3割の回答。
 - *地域の情報は、「家族」から知る30%、次に「友だち」「学校」、「回覧板」は7%。
 - *地域の人からほめられたことがある41%。大人社会との隔たりが伺える。
 - *近所の人と良く話す26%で、挨拶する程度が64%、話をしない10%の回答。
- 大人から見た「ご近所」は・・・(2020 年度：753名の20 歳以上の大人対象調査)
 - *親しく、行き来するご近所が数軒ある52%、1軒くらい24%、まったくない18%。
 - *ご近所との付き合いは、差しさわりのない会話が出来る人はいる56%。
 - *地域の情報は、「ラジオ・テレビ」「ネット」「新聞」「家族」の順。「回覧板」が少ない。
 - *地域の行事参加は、時々参加が54%、まったく参加しない20%。
- 高齢者から見た「ご近所」は・・・(2022 年度：794名の65歳以上の高齢者対象調査)
 - *地域の情報は、「ラジオ・テレビ」26%、「新聞」21%「家族」から知る17%、「回覧板」4%。
 - *近所の人とは、外で立ち話す程度26%、会えば挨拶する程度22%。
 - *親しく、行き来するご近所が数軒ある60%、1軒くらい23%、まったくない8%。
 - *地域で困った時、見守り・声掛け(安否確認)が必要29%

と 静岡福祉文化を考える会の拠点

- ▶ 1989年 「日本福祉文化学会」設立
- ▶ 1995年 阪神淡路大震災
- ▶ 1996年 「第11回学会発表セミナー」
- ▶ 1996年9月 「韓国福祉文化発表大会」結成

スローガン：「地方発福祉文化の創造」

“人間らしい豊かさをめざして、
今、文化としての福祉を語る”

・活動の視点を振り返る（プロセス）



➤ 静岡福祉文化を考える会28年間の73冊入を検証



●中学生から見た「ご近所」・・・(2023年度:351名の中学生対象調査)

*市内会や自治会等の具体的な組織名称を知っているが3割と少ない。

*約9割が、自分の地域は住みやすい地域であると回答している。近所づきあいがよいと回答あり。

*地域を「回覧板」から知る回答13%。ネットよりも高い回答。

と、これまでの調査結果を紹介しながら意見交換をした。

2つめのプログラム「ワークショップ」は、今年度の赤い羽根助成事業:若者発「ご近所福祉によるご近所福祉検証事業「かるたで、私の地域を検証」をテーマに、これまでも試みてきた、かるたから読み取る、参加者の地域の現状と抱える課題をもとに議論し合った。



●「ご近所福祉検証期」までのプロセスを探る ご近所福祉こそ“福祉文化”

30年の節目を迎える、本会の29年の歩みを振り返ると、「ご近所福祉こそ福祉文化」につながる。

■『草創期』(1996年度～2001年度の6年間)

*結成直後は、模索しながらも、地域社会の課題をもとに「結婚」、「共働き」、「地域」、「家族」、「父親」、「ボランティア活動」等を議論した。

■『協働期』(2002年度～2007年度の6年間)

*日本福祉文化学会から、静岡県において「学会全国大会」の開催を強く要請され、県内外有志42名で実行委員会を立ち上げた。平成13年11月29日「学会全国大会静岡大会プレ大会」(参加者約300名)翌平成14年11月30日・12月1日に、「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに「第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」(裾野市会場、全国から延べ約600名が参集)の開催を実現した。この期は、更に、県内外の関係団体等との関係づくりに努めながら、「働く人の暮らし」、「生活圏域の検証」、「子どもを育む地域環境」、「団塊の世代」等を議論し合った。



■『実践融合期』(2008年度～2014年度の7年間)

*静岡県委託事業「一人でも安心して暮らそう地域づくり事業」をもとに、高齢者等が地域で孤立することなく、安心して暮らし合えるための検証活動に取り組んだ。

■『共創社会実現期』(2015年度～2019年度の5年間)

*「生活圏域の地域づくり」、「ご近所の助け合い」、「地域ぐるみの居場所」、「子どもを育む地域」、「地域ぐるみの支え合いの仕組み」等の検証に取り組んだ。

■『ご近所福祉検証期』(2020年度～2023年度)

*これまでのプロセスから、2020年度は「つながるご近所の再構築—ご近所福祉の復活—」を活動テーマに掲げ、その翌年度(2021年度)は、「地域を家庭化する支え合いの検証」そして、2022年度「ホッと豊かな地域づくりを拓く—共生社会実現を探る—」、2023年度「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”」に取り組んできた。



第13回日本福祉文化学会全国大会静岡大会(全国から650名参加・裾野市で開催)からスタートした「静岡県福祉文化研究セミナー」は、今年度23回目を迎えます。「静岡発 福祉文化の創造」を語り合しましょう。研修テーマは「ご近所福祉こそ福祉文化」です。

●開催日時 令和6年 11月30日(土) 13:30～15:30

*ぜひ、ご参加下さい!

●開催会場 静岡市清水区追分 「寄ってっ亭」Tel054-367-2878

(054-624-1924 平田まで)

●プログラム ① 基調報告 その1「協働による福祉文化の創造 23年間を検証」

② 基調報告 その2「若者発 近所福祉かるた その後の動き —活用事例紹介—」

③ 円卓トーク「中学生から大人社会への15の提言と若者発 近所福祉かるた」

■事務局日誌拝見(4/13～6/8)

3/30	第220回委員会開催 2023年度総括 2024年度活動計画協議(役員確認・赤い羽根助成事業展開確認等)
4/01	2024年度活動開始 会員18名確認 赤い羽根助成事業に関する連絡調整 県コミュニティづくり推進協議会より、本会ブログを県コミ推協のHPとリンクの連絡有
4/08	会員宛、「2024年度全体会」開催案内及び各種資料(調査報告書)発送
4/09	三島市民生委員児童委員協議会研修会にて「中学生対象調査」の取り組み説明
4/10	赤い羽根助成事業交付請求書類作成作業に取り組む
4/13	焼津福祉文化共創研究会「2024年度4月(第61回)定例研究会」開催 赤い羽根助成事業「第1回共創社会実現研究会」開催 2023年度監査実施 2024年度 静岡市ボランティア連絡協議会総会(静岡市)出席
4/15	「赤い羽根助成事業・交付請求書」及び添付資料を県共同募金会に提出
4/20	焼津福祉文化共創研究会関連:2024年度焼津市V連絡協議会総会及び代表者会出席
4/22	静岡県社協に、2024年度赤い羽根助成事業の取り組みについて、側面的協力を依頼する
4/25	赤い羽根助成事業:かるた活用状況調査 書式及び依頼文書作成作業(QRコード添付) 調査依頼先各種団体ラベルシール作成、かるた増刷配布事業に関する準備作業実施
4/26	赤い羽根助成事業「かるた増刷配布事業:印刷業者:(有)シブヤ印刷工芸社との協議開始
4/29	ブログアクセス件数 平均250件から300件台
4/30	「赤い羽根助成事業振り込み」(54万円)確認
5/02	焼津福祉文化共創研究会通信第57号編集・発行し、関係方面にメール送信・配布
5/11	赤い羽根助成事業「かるた活用状況調査」依頼文書発送(総計66件) 焼津福祉文化共創研究会「5月(第62回)定例研究会」開催
5/15	赤い羽根助成事業「第2回共創社会実現研究会」開催 2024年度全体会資料作成(2023年度事業報告・決算、役員選出、2024年度活動計画・予算案)
5/25	第221回委員会開催(2024年度役員及び活動計画確認、全体会展開確認) 2024年度全体会(第1回公開型研修会)開催
6/08	赤い羽根助成事業「第3回共創社会実現研究会」開催 「OUR LIFE 第153号」発行 会員及び関係方面に配布・メール送信 会員宛に全体会及びセミナー開催等資料発送

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、2024年度、29年目の福祉文化実践活動に取り組んでいる。

長引く、厳しいコロナ禍だからこそ、「福祉文化」を問いつつ、さらに「静岡発 福祉文化の創造」に、関係機関・団体等との協働で、身近な福祉問題を広く公開型で学び合う。特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。

本会の活動基盤は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員は、地域社会全般の課題解決に向けて、市民の視点で活動をしている。

ご一緒に「福祉文化」を議論しませんか。

◆ブログで活動を発信中。◆関心のある方は、下記にお問い合わせ下さい。

■会費:社会人3,000円 大学生以下1,000円

■問い合わせ:420-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax:054-367-2884

2024年度、本会は、県民からの募り赤い羽根共同募金助成事業により「若者発 近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」を、焼津福祉文化共創研究会と協働で取り組んでいる。本会は、これまでに、平成20年度・長寿者の生きがいその意識と実態調査事業、平成27年度・若者発 近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業、令和3年度・若者発 近所福祉かるたと地域福祉教育事業を「赤い羽根助成事業」により取り組んできた。意義ある事業としていきたい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード

静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

Our Life 154号

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
NPO法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884
静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
編集委員
藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

＊内容＊

- 2024 年度赤い羽根助成事業「若者発 ご近所福祉かるた」活用状況調査まとまる……P.1～2
- 「若者発 ご近所福祉活用事例集」の編集作業開始 かるた配布提供先への発送準備 ……P.3
- 「第23回静岡県福祉文化研究セミナー案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」……………P.4



2024年度「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）助成事業 “若者発 ご近所福祉かるた” 活用状況調査まとまる

本会は、平成20年度から平成26年までの7年間、県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」で、高齢者の孤立・孤独防止事業に取り組み、多くの若者が、長寿者訪問型研修会で、ご近所のふれあい・ささえあいこそ重要な解決策であることを高齢者から学びあった。

延べ24回、243名の若者から400余りの意見をもとに、世代を超えたご近所を学ぶ教材として、2015年度（平成27年度）県共同募金・広域福祉活動助成事業/若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業により、「共創社会実現研究会」を設置し議論を重ね、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生した。その後、改めて、高齢者の社会参加、集まる居場所の活性化、学校教育と社会教育の融合による課題等が浮き彫りになり、2021年度（令和3年度）、再び、静岡県共同募金会助成事業/若者発 ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業により、「かるたの増刷」（100セット）と、「かるた」の有効活用を目的に、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」を作成した。これまで「かるた」を配布提供した各種団体、福祉施設、・地域グループ・地域実践者（個人）等46か所に、これからのご近所福祉を推進することを目的に、5月11日に「活用状況調査」を依頼した。かるた誕生から10年が経過し、ご近所福祉が見え隠れし、加えて、厳しいコロナ禍下の中での活用状況把握は、今日の地域課題を浮き彫りにした一面も伺えた。この調査は、単に活用実績結果を考察することではなく、地域福祉教育の教材の開拓するために意見を求めた。

このたび回答いただいた、尊い活用状況を参考にし、更に、「かるた」の有効活用を働きかけるために、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成つなげる。調査結果の概要は次のとおりである。

- 調査対象 「平成27年度及び令和3年度赤い羽根広域地域福祉活動助成事業」により作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を計画に基づき配布提供した静岡県内の各種団体及び地域活動グループ、地域実践者（個人）等46か所に、5月11日調査を発送し、6月30日を締切とした。
- 調査依頼／配布及び回収方法 ① 調査依頼／配布方法：郵送による依頼 ② 回答方法：添付した「QRコード」による回答、電話、FAX、手渡し、または郵送により回答。
- 調査項目 ①活用領域：福祉施設、地域サロン・居場所活動・地域実践者、福祉団体等 ②活用目的 ③ 参加者層：年代、性別、世代別）と参加者数 ④ 活用方法（具体的な展開、所要時間） ⑤ 参加者の反響（かるた活用による、ご近所福祉への理解度）⑥活用所見（課題提起）
- 調査の展開（今後の予定含）

①調査実施要項・調査票（項目）検討 … 2024年04月13日～2024年05月11日

＊「本会委員会」及び「共創社会実現研究会（調査部会）」等で協議した。

② 調査実施要項・調査票完成 … 2024年05月11日

③ 調査依頼（実施期間） … 2024年05月11日～2024年06月30日

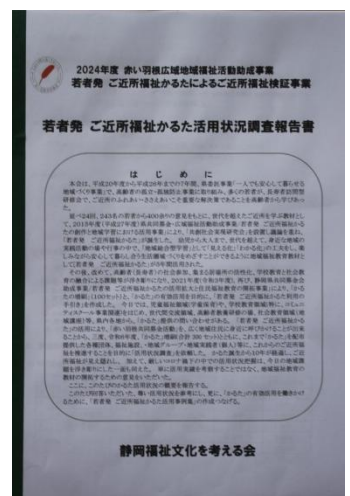
④ 調査取りまとめ期間（回答結果） … 2024年06月30日～2024年07月17日

⑤ かるた活用事例集編集作業 … 2024年07月30日～2024年08月30日

⑥ 公表・報告 … 2024年11月30日

＊ 第23回静岡県福祉文化研究セミナー（11/30）、関係団体等の各種研修会等で情報提供

＊ 本会機関誌等で経過報告及び考察概要掲載



●調査配布及び回収結果

(1) 活用領域別回答状況（29箇所）

No.	活用領域	調査依頼数	調査回答数	活用回答数	活用未回答数
1	サロン・居場所	8箇所	8箇所(100%)	8箇所	0箇所
2	福祉施設	7箇所	6箇所(85.7%)	5箇所	1箇所
3	個人(地域実践者)	15箇所	10箇所((66.7%)	8箇所	2箇所
4	社会福祉協議会	16箇所	5箇所(31.3%)	3箇所	2箇所
計		46箇所	29箇所	24箇所	5箇所
%			63.0%	82.8%	17.2%

(2) 回答方法

A. 郵送	B. 手渡	C. QRコード	D. FAX	E. 電話	計
10箇所	7箇所	0箇所	8箇所	4箇所	29箇所
34.5%	24.1%	0%	27.6%	13.8%	100%

●全般的調査考察

(1) 年度別回答状況から

- 本調査対象は、「平成27年度」と「令和3年度」に分かれた回答結果である。

「平成27年度」においては、初めて作成したため、関係機関・団体、事業に関わった関係者を対象に配布提供をした。そのため、14箇所を対象に調査を依頼した結果、回答状況は10%と低い。また、未使用または、現在までに、かるたが十分に引き継がれていない現状が伺えた。

単に、啓発事業に終わり、管内地域・グループ等には浸透していない。

約十年を経過すると、当時の担当者や責任者が退任・異動等で、成果物の有無が認識していない。

やや限られた領域への提供が中心であるため、組織内にうずもれている状況にある。

一方では、地域においては、地域福祉教育教材として、有効活用したいと、本会への問い合わせが多くあり、第2期の助成事業につなげた経緯がある。

また、当時の状況を振り返ると、活用を希望する団体・グループと、提供配布先の団体・グループとの連絡調整を本会が担い、近隣市町の成果物を貸し出し出来る申し合わせをルール化した経緯がある。

積極的に活用を希望する団体・グループにおいては、借用期間の限界があり、出来れば、常に活用できる状態にしたいという検討結果から、貸出方式の限界から、次なる、かるた増刷の検討に至った。

こうした、状況を踏まえて、本会としては、県内各地において開催された研修会や会議等で、かるたの誕生の意義とともに、資料化の活用を積極的に呼びかけた。

具体的には、各種団体等の研修会資料へのかるたの掲載や、地区記念誌に、関連したかるたの内容を紹介したり、地域活動の広報誌等に積極的に掲載を働きかけた。

管内地域の広報板にも「見える化」の有効活用を働きかけ、設置の動きも見られた。

- 「令和3年度」の事業に取り組むに当たり、6年間の課題を整理して、配布活用範囲の再検討とともに、これまでに、配布を強く希望していた、地域・団体・地域実践者への活用打診とともに、本会としては、かるたを有効活用していただくための「かるた利用の手引き」の編集作業に取り組み、かるたとともに「かるたの利用手引き」を添えて、更なる活用を働きかけた。

こうした取り組みは、令和3年度の配布提供先の回答結果から読み取れた。

- しかしながら、この時期において、地域社会において大きな課題として浮上したのが、「コロナ感染」による、対面式集会が困難になってしまったことである。

こうした地域環境の中でも、障害者施設からのかるたの活用状況の回答をはじめ、さわやかクラブ、通所介護事業所、居場所から、現状の地域をもとに、これからの地域に期待した、具体的な活用回答が寄せられている。

- 地域社会における地域住民の共助の意識の希薄化が伺えて、回答をいただいた団体・グループにおいては、かるたの活用については、まだ慎重な運営を余儀なくされている一面も伺える。しかし、どの領域においても「ご近所福祉」の再構築の課題はしっかりと受け止めている。
- 本会としては、さらに地域社会に「ご近所福祉の再構築」を働きかけていくに当たっては、各領域の活動目標をしっかりと位置づけしていくことを認識し、援助者・地域リーダーには、地域福祉教育の教材として、積極的に有効活用していく働きかけをしたい。
- かるたの活用を、単なる遊び的活用から、地域を語り学び合う、世代を超えた活用方法へと発展する一面も把握することが出来た。



(2) 活用領域別回答状況から

①「サロン・居場所」領域からの回答は100%で、活用状況も積極的である。

より身近な地域で、地域住民とともに地域を学び合う教材として、積極的に活用されていることが理解できた。どの領域でも、共通的な課題であるが、中心的人材が交代をしたときに、有効活用していくことが領域の中で常に把握をしていないと、活用は継続していかない一面がある。

常に、「見える化」していく工夫を働きかけていかなければならないことと、活動計画に「かるたの利用」を明確に位置づけしていくことで、定着していくことが期待したい。

②「福祉施設」領域からの回答は6箇所(85.7%)で、活用状況は、通所事業所の活用が大半であった。

未活用の回答では、当時の担当者がすでにいないため、領域内での引継ぎがないままに今日に至っている回答であった。通所事業所では、利用者からむしろ支援者が地域を学ぶ上でも、かるたの方向付けは大きな意義を持つと感じた。

③「個人(地域実践者)」領域の回答は、10箇所(66.7%)。

活用回答では、主体的に参加者相互の理解をもとに、積極的に地域課題を問題提起する行動力が伺えた。

また、家族で、孫との向き合う中で、家族を取り巻く地域を語ることが出来る立場で、活用領域が広がっている。

④「社会福祉協議会」領域は、回答は5箇所。

更に、市町村協管内の小地域福祉活動の推進における具体的な地域福祉教育教材としての配布提供に努めていきたい。



「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の編集作業開始

このたび、実施した「かるた活用状況調査」回答から、尊い活用内容を参考にしながら、更に「若者発 ご近所福祉かるた」を有効活用していただき、「ご近所福祉」をさらに推進することを目的に、現在、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の編集作業に、6月中旬から取りかかっている。

9月中旬までに40ページ・200部を完成し、新たにかるたを配布提供する団体・グループをはじめ、関係方面に配布を予定している。また、11月30日の「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」で紹介する予定。

主な内容は、第1章：若者が高齢者から学んだ“ご近所の支え合い” 第2章：“若者発 ご近所福祉かるた”誕生から10年 第3章：“ご近所福祉検証期”の福祉文化実践からの提言 第4章：“若者発 ご近所福祉かるた”には、沢山のキーワード満載 第5章：各地域・領域から寄せられた活用事例を紹介し、第6章：“若者発 ご近所福祉かるた”でつながる地域

かるた増刷100セット納品、かるた配布提供先への発送準備作業

今年度の赤い羽根助成事業「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」においては、かるたの増刷作業においては、印刷業者との協議で、「共同募金マーク」の差し替え作業を実施し、8月納品予定を早め、6月中旬に完成をした。

「共創社会実現研究会」において、かるたの配布提供先（現在 51箇所検討）の検討作業を進めるとともに、メール便から郵送に移行した発送方法の協議を重ねる中、現在、ラベルシール作成、保管袋の準備等の作業に取り掛かっている。

写真は、納品されたかるた、レターパックによる配布提供先への発送作業状況。



大いに、「静岡発 福祉文化の創造」を語り合しましょう。 *ぜひ、ご参加下さい！

「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」開催のご案内

テーマは「“ご近所福祉”こそ福祉文化」

今回のセミナーでは、失われつつある「共助社会」の再構築を、参加者とともに、これまでの実践活動を振り返りながら、本会が、平成20年度以降、働きかけてきた「ご近所福祉」を、「若者発 ご近所福祉かるた」をもとに、「ご近所福祉こそ福祉文化」をテーマに掲げて、今一度、身近な足元の「福祉文化」を語り合います。

●開催日時 令和6年11月30日(土) 13:30~15:30

●開催会場 静岡市清水区追分 「寄ってっ亭」Tel054-367-2878

●プログラム ① 基調報告 その1「協働による福祉文化の創造 23年間を検証」

② 基調報告 その2「若者発 ご近所福祉かるた 一活用事例紹介」

③ 円卓トーク「中学生から大人社会への15の提言と若者発 ご近所福祉かるた」

●申し込み・問合わせ先 〒425-0041 焼津市石津 3丁目 10-8 静岡福祉文化を考える会 平田 厚

TEL&FAX 054-624-1924 携帯 090-4861-4547

E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

■事務局日誌拝見(6/8~8/5)

6/08	赤い羽根助成事業「第4回共創社会実現研究会」開催 「OUR LIFE 第153号」発行 会員及び関係方面に配布・メール送信 会員宛に、全体会及びセミナー開催等資料発送
6/12	シブヤ印刷工芸社より「若者発 ご近所福祉かるた」増刷分(100セット)納品
6/13	郵便料金の値上げ公表で、今後の赤い羽根助成事業を前倒しで作業を進めていく検討をする
6/19	関係団体・関係者に、本会活動の取り組み状況を報告する
6/20	「かるた活用事例集」編集継続作業 かるたの配布提供先の調整作業実施中
6/30	「かるた活用状況調査」締め切る
7/01	かるた配布提供に関する準備作業に取り組む(ラベルシール作成・セット作業) 関係団体の会議で、本会の今年度の赤い羽根助成事業の取り組み状況を説明する
7/08	関係団体に、赤い羽根助成事業の取り組み状況を報告する
7/10	「OUR LIFE 第154号」編集作業に取り組む 「かるた活用状況調査報告書」を仕上げる
7/17	赤い羽根助成事業「第5回共創社会実現研究会」開催
7/29	関係団体・関係者に、本会活動の取り組み状況を報告する
8/01	「かるた活用事例集」編集継続作業(9月20日までに、編集完了努力)
8/05	「OUR LIFE 第154号」発行 会員及び関係方面に配布・メール送信

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、2024年度、29年目の福祉文化実践活動に取り組んでいる。

長引く、厳しいコロナ禍から、ようやく明るい兆しが見えてきた時期だからこそ、「福祉文化」を問いつつ、さらに「静岡発 福祉文化の創造」に、関係団体等と協働で、身近な福祉問題を共有している。

特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの柱立てにより、その年度の地域課題をもとに取り組んでいる。「福祉文化」を皆さんで、議論してみませんか。

◆ブログで広く福祉文化実践活動を発信中。

◆関心のある方は、下記にお問い合わせ下さい。

■会費：社会人 3,000円 大学生以下 1,000円

■問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

今年は、「短期集中型梅雨」から、更に、猛暑日が続く気候で、何かと地域活動も滞ることが懸念される。そして、まだまだ予断を許さない状況のコロナ禍。2024年度は尊い県民からの「赤い羽根共同募金」による助成事業「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に4月から取り組み4か月が過ぎた。なんとか、ここまで、事業計画に基づき順調に活動が進んでいる。

ご存知のように、2024年度で、これまで活用していた「メール便」から、郵便による情報提供に切り替えている。ところが、10月から、郵便料金の大幅な値上げで、事業を前倒しで取り組まなければならない状況にある。会員の一層の協力をお願いする。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
 NP0 法人泉の会内 Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884
 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
 編集委員
 藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

Our Life 155号

- ＊内 容 ＊
- 2024 年度赤い羽根助成事業「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」完成……………P.1
 - 「若者発 ご近所福祉かるた」増刷し、配布提供計画に基づき発送完了……………P.2
 - 第23回静岡県福祉文化研究セミナーで「ご近所福祉こそ福祉文化」を議論……………P.3
 - 「30周年を迎えて」「第2回公開型研修会案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」……………P.4



2024年度「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）助成事業 「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」完成する

本会では、平成27年度 県共同募金・広域福祉活動助成事業により、「若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」で「若者発 ご近所福祉かるた」（100 セット）作成。その後、令和3年度 静岡県共同募金会助成事業「若者発 ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」により、「かるたの増刷（100 セット）と、「かるた」の有効活用を目的に「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」を作成した。今年度、三度、「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」として、「かるたの増刷」（100 セット）と、これまで「かるた」を利用した各種団体からの「活用レポート」と、改めて「活用状況調査」を実施し、回答いただいた尊い活用実績・報告（前号で掲載）をもとに「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。「若者発 ご近所福祉かるた」は、この10年間で合計 300 セットを県内各領域に配布提供することが出来た。



「若者発 ご近所福祉かるた活用状況調査」を5月～6月に実施し、その後、「かるた活用事例集」の編集作業は、6月～ 8月まで集中して取り組み、9月上旬に完成した。

制作にあたっては、「若者発 ご近所福祉かるた」の「絵札」を作画していただいた、漫画家 法月理栄様に、ご多忙の時期に、活用事例内容の作画をお願いしたところ、短期間に19点の作画を制作していただき「わかる化・見える化」した「かるた活用事例集」（A4版 全頁カラー刷40P 200部発行）を仕上げる事が出来た。第1章から第3章までは、本会の29年間の福祉文化実践活動から、若者が積極的に、地域社会における高齢者を取り巻く、さまざまな生活状況を学び、地域福祉教育教材として「見える化・わかる化」した、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生してから、10年間のプロセスをまとめた。

「第5章 紹介します 各世代・領域の活用事例」では、「家庭・家族」「居場所・サロン」「コミュニティ」「福祉施設」「学校」「福祉団体」「その他：拡大かるた」の各領域別活用項目別して、「進め方」「楽しさの工夫」「留意点」をもとに、27の具体的な活用を「イラスト」とともにまとめた。

なお、「従来型（かるた取り）活用方法」「グループワーク的活用方法」「課題解決型活用方法」「その他の活用方法：ジャンケンゲーム・絵合わせゲーム・伝承ゲーム」等の活用も加えている。



＊家庭・家族：高齢者自身の学習で活用の事例紹介



＊コミュニティ：高齢者の集いの行事の活用の事例紹介

「若者発 ご近所福祉かるた」県内52箇所に配布提供

2024年度 赤い羽根共同募金・地域福祉活動支援事業「“若者発 ご近所福祉かるた”によるご近所福祉検証事業」は、「かるた活用状況調査」の実施、「かるた活用事例集」が出来上がり、既に納品された「かるた増刷」（100セット）を組み合わせ、このほど、配布提供計画に基づき、一連の作業が完了した。

「若者発 ご近所福祉かるた」は、「2015年度（平成27年度）：若者発 ご近所福祉かるたの創作と地域学習の開拓事業」で、100セットは、76個人・福祉団体・福祉施設に配布提供した。

「2021年度（令和3年度）：若者発 ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育開拓事業」では、100セットを、福祉団体・福祉施設・NPO法人・サロン・児童館・学校・地区社協・実践者等46箇所に提供配布をした。

令和6年度、3回目の「若者発 ご近所福祉かるた」増刷100セットは、これまでの配布提供実績をもとに「共創社会実現研究会」において協議を重ね、下記の通り、「地域別」「領域別」をもとに、各方面からの推薦をいただき、配布提供した。県内の市町社会福祉協議会には、この10年間で、全ての市町社会福祉協議会に配布提供することが出来た。

●地域別配布状況

地 域	東部地域	中部地域	西部地域	計
箇所数	23箇所	17箇所	12箇所	52箇所
セット数	45セット	31セット	24セット	100セット

●領域別配布状況

No.	配 布 先	箇 所	セット（個数）
1	社会福祉協議会	18	38
2	さわやかクラブ	2	4
3	福祉施設	11	21
4	サロン・居場所	6	10
5	コミュニティ組織（地区センター）	9	16
6	学校領域	3	6
7	福祉団体	2	3
8	学童保育	1	2
合 計		52	100



*クラフトで2025年の干支創る

2024年度赤い羽根助成事業実施計画に基づき「共創社会実現研究会」全8回開催

既に、本誌第152号で掲載したが、「2024年度赤い羽根助成事業 ー若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業ー」を円滑に取り組むため、「焼津福祉文化共創研究会」と協働で、「共創社会実現研究会」を設置し、このたび、計画通り全8回の開催が終了した。

設置の目的は「今日、地域コミュニティへの参画の希薄化とともに、家族機能やご近所のささえあいは、制度や施策等公助ありきの意図的支援が当たり前のような社会環境になりつつある。加えて、長引く、厳しいコロナ禍において、ますます、地域コミュニティのつながりやご近所のささえあいが弱くなっている。こうした制約された社会環境の中で、ようやく、地域社会に明るい兆しが見えてきたこの時期に、地域社会の現状を把握するとともに、計画に基づく「若者発 ご近所福祉かるた」による地域学習状況を把握し、「地域の支え合い」をまとめる調査の展開協議を深めるとともに、円滑な事業展開をする目的で設置する。」

第1回を4月13日に開催し、その後第2回（5/11）、第3回（5/25）、第4回（6/8）、第5回（7/13）、第6回（9/14）、第7回（11/9）、第8回（12/14）と、精力的に「かるた活用状況調査の実施」「かるた増刷と配布提供計画と発送」「かるた活用事例集の企画・編集・発行」「事業総括と本会の今後の活動の方向性」

について協議を重ねた。

「第23回 静岡県福祉文化研究セミナー」で23年間の歩みをもとに、“ご近所福祉”こそ福祉文化を語る

本会は、平成8年9月結成して、2024年度、29年目の活動に取り組んでいる。結成7年目の平成14年に、日本福祉文化学会より「第13回学会全国大会」の静岡県開催を要請され県内有志42名が実行委員会を組織化して、平成14年11月30日・12月1日の2日間、裾野市、裾野市社会福祉協議会社会福祉法人富岳会等の全面的協力のもと、裾野市市民文化センターにおいて全国各地から650名余の参加者が「富士山麓いのちとくらしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに熱く議論した。静岡県から「福祉文化の火」を消すことなく県内外に発信しようとする大会を「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」として、「静岡発 福祉文化の創造」を実践し続けここに、23回目のセミナーを11月30日(土)、静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で開催した。

当日は、(1)「福祉文化 その原点は何か」を学ぶ場(2)「静岡発 福祉文化の創造23年のセミナーの道程」を学ぶ場(3)協働による地域活動の発展を探る(4)「私にとって ご近所とは、中学生の意識と実態調査結果」を今一度学ぶ場(5)「ご近所福祉こそ福祉文化」を検証する場(6)「若者発 ご近所福祉かるた」誕生から10年「わかるご近所福祉」を学ぶ場 一世代を超えて、地域づくりを語り合う環境(地域総合型学習)を実践する一を着眼項目に、参加者相互に和やかに意見交換をした。

プログラム

13:30 開会セレモニー

13:40 基調報告①

「“協働”による福祉文化の創造 23年間の検証」

14:10 基調報告②

「若者発 ご近所福祉かるた その後の動き 一活用事例集」

14:50 休憩

15:00 円卓トーク

「中学生から大人社会への15の提言と若者発 ご近所福祉かるた」

15:30 閉会セレモニー



2025年度の活動テーマ検討

「静岡発 福祉文化の創造 30年の軌跡を検証する」

異業種交流、世代を超えた交流の場、共助社会の再構築、専門性と市民性の融合等、様々な角度から「静岡発 福祉文化の創造」を県域に発信してきた本会は、今年度30年の節目の福祉文化実践活動を迎える。

改めて、29年間の振り返ると、

■『草創期』(1996年度～2001年度の6年間) ■『協働期』(2002年度～2007年度の6年間) ■『実践融合期』(2008年度～2014年度の7年間) ■『共創社会実現期』(2015年度～2019年度の5年間) ■『ご近所福祉検証期』(2020年度～2024年度)をこれまで整理してきた。

2025年度の活動テーマを「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡を検証する」を掲げ、「3つの活動基調」と「3つの活動の柱立て」をもとに、取り組んできた「福祉文化」を静岡県内に発信できたかを検証することを掲げたい。2013年度に地域福祉教育教材の開発に取り組み、2015年度(平成27年度)「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生につなげ、2021年度(令和3年度)「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷とともに、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」の作成につなぎ、2024年度(令和6年度)三度、「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷と「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成につなげてきたプロセスを基に、引き続き、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動を、協働関係の

「焼津福祉文化共創研究会」とともに、引き続き「“ご近所福祉”こそ福祉文化」を検証していきたい。

第2回 静岡福祉文化を考える会 公開型研修会のご案内 定員 20名 参加費無料 大いに語ろう 私のご近所のこれからを描く

29年間「静岡発 福祉文化の創造」を発信しながら、みんなで創る「ご近所福祉」を語り合ってきました。そして、静岡県に、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して10年。

県内各地で、「ご近所福祉」を「見える化」「見せる化」「わかる化」する学び合いに活用してきた「若者発 ご近所福祉かるた」と、今年度作成した「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、改めて、私にとっての「ご近所福祉ってなに？」を大いに語り合しましょう。

●開催会場 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」●開催日 令和7年2月22日(土) 13:30

13:30 開会 *開会挨拶 *オリエンテーション

13:50 基調報告「若者発ご近所福祉かるた10年を検証する」

14:30 休憩

14:40 円卓トーク「大いに語ろう 私のご近所のこれからを描く」

15:30 閉会

●参加申し込み・問い合わせ先：電話、FAX、メールなどで「氏名」「市町名」「連絡先」を明記の上下記まで

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

TEL&FAX054-624-1924 携帯 090-4861-454 E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

■事務局日誌拝見(8/5~12/15)

8/05	「OUR LIFE 第154号」発行 会員及び関係方面に配布・メール送信
8/08	漫画家 法月理栄様と協議(かるた活用事例集への協力依頼)
8/10	「かるた活用事例集」編集作業(～8/30完了メド)
8/29	静岡県コミュニティづくり推進協議会に、本会活動状況報告
9/02	「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」完全原稿で入稿
9/03	沼津市関連会議において、「2023年度中学生対象調査結果」概要報告
9/07	「第6回共創社会実現研究会」開催 当面の事業展開について協議
9/10	「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」納品
9/11	「かるた及びかるた活用事例集」を配布提供計画に基づき発送作業開始(～9/21完了)
9/21	「2024年度コミュニティカレッジ」において、本会活動紹介
9/27	漫画家 法月理栄様に「かるた活用事例集」完成報告 本会30周年記念誌作成企画書検討
10/18	障害者団体研修会において、本会の「ご近所福祉活動」を紹介する
11/9	第7回共創社会実現研究会開催
11/30	第222回委員会開催 第23回静岡県福祉文化研究セミナー開催
12/14	第8回共創社会実現研究会開催
12/15	「OUR LIFE 第155号」発行 会員及び関係方面に配布・メール送信



●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、関係団体との協働で、身近な福祉問題を活動テーマに、29年目の福祉文化実践活動に取り組んでいる。特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」。

更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの柱立てによりその年度の地域課題をもとに活動に取り組んでいる。

◆ブログで広く福祉文化実践活動を発信中。

◆関心のある方は、下記に、お問い合わせ下さい。

■会費：社会人 3,000円 大学生以下 1,000円

■問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

4月から、精力的に取り組んできた「赤い羽根共同募金助成事業―若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業―」は、「焼津福祉文化共創研究会」の全面的な協働活動により、「共創社会実現研究会」を設置し、「かるた増刷と配布提供」「10年間のかかるた活用状況調査の実施」「かるた活用事例集の企画・編集・発行」等に取り組み、12月14日の「第8回研究会」(最終回)で総括する。「かるた活用事例集」作成にあたり、漫画家 法月理栄様には、ご多忙の中、多大なご力添えをいただき感謝申し上げます。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17
NPO法人泉の会内 Tel:054-367-2878 Fax: 054-367-2884
静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚
編集委員
藤下品子 古屋貴彦 河野恵介 平田 厚

Our Life 156号

＊ 内 容 ＊	➤ 2024 年度赤い羽根助成事業が完了し「報告書」提出…………… P.1
	➤ 2024 年度最後の研修会開催…………… P.2
	➤ 「2025 年度活動計画」を検討/「30周年記念誌」の発行に向けて…………… P.3
	➤ 「2025 年度第 1 回公開型研修会（全体会）」開催案内/「事務局日誌拝見」「編集後記」…P.4



2024年度「赤い羽根」地域福祉活動（広域団体）助成事業が完了 「事業報告研修会」を開催し、事業報告書提出

本会は、「2024年度赤い羽根共同募金助成事業」により、「若者発 ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に取り組み、このたび全ての事業を終了した。

(1)「共創社会実現研究会」開催（全8回）

助成事業を円滑に取り組むための協議（この10年間のかるたの活用状況調査に関すること、増刷かるた配布提供先の検討・決定、かるた活用状況の検証、かるた活用事例集企画・編集協議等）及び、今日的な地域課題に関する議論を本会会員、協働団体焼津福祉文化共創研究会、地域実践者、地域活動に関心のある市民等により開催した。

(2)「若者発 ご近所福祉かるた活用状況調査」の実施

5月➡これまで10年間に寄せられた「かるた活用レポート」（活用報告）の整理作業、平成27年度・令和3年度に「かるた」を提供した団体・グループ等に対して、かるた活用状況調査実施に関する協議

6月➡かるた活用状況調査実施 ➡かるた活用状況調査回収・考察 ➡調査実施報告書作成とかるた活用事例集に原稿編集移行

(3)「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷(100 セット)・配布先協議・配布提供

4月➡印刷業者と協議（一部校正作業あり）

「共創社会実現研究会」を開催し、配布提供先を協議し、事業の具体化を図る。

5月➡印刷業者との協議、発注、配布提供先確認

6月➡ かるた納品

9月➡かるた・事例集をセットにして「レターパック」で発送作業実施（52箇所）

(4)「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成

5月➡企画書立案 8月➡編集協議（漫画家・法月様）・原稿整理・編集（イラスト挿入）

9月➡印刷発注・納品(200部)、かるた・事例集セットで配布提供作業

(5)「赤い羽根助成事業」に関する県民への公表（啓発研修等）

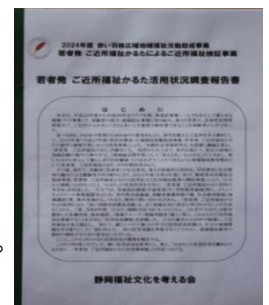
・5/25 2/22 「公開型研修会」、11/30「静岡県福祉文化研究セミナー」開催

・「各民生委員児童委員協議会研修会」「静岡県コミュニティカレッジ」「県身体障害者福祉会中部地区研修会」等幅広く啓発研修を実施。

＊これまで10年間、赤い羽根助成事業により制作した「若者発ご近所福祉かるた」は、県内各領域に計画的に配布提供してきた。今回の事業により、長引くコロナ禍によりコミュニティ意識の希薄化等地域の現状を把握することが出来た。

「かるた活用状況調査」の実施により、改めて、各方面に「ご近所福祉」の必要性を問題提起することが出来た。そして、「若者発ご近所福祉かるた」の有効活用を再認識する機会となった。

＊平成27年度「若者発ご近所福祉かるたの創作と地域学習における活用事業」、令和3年度「若者発ご近所福祉かるたの活用拡大と住民福祉教育の開拓事業」そして、三度、今年度の「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証事業」の持続的・啓発的取り組みにより「かるた増刷（合計300セット）」「かるた利用の手引きの作成」とこのたびの「かるた活用事例集」の作成により、コロナ明けの共助の再構築に向けて、小地域における「地域福祉教育教材」として「見える化」「わかる化」のご近所福祉の推進に活用領域を広げる努力をしていきたい。



●「若者発 ご近所福祉かるた」若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」配布提供先からの反響 これまでに、本会に寄せられた配布提供先から届いた意見等の一部抜粋して紹介する。

領 域	配 布 提 供 後 の 動 き
実践者	・かるたが10年間にわたり、ご近所福祉を学ぶ地域福祉教材として活用されていることを知り、改めて、今の社会状況を思うと、市民の意識改革を求めて、身近な地域で、世代を超えた学び合いとして活用していくよう努力をする。
学校（中学校）	・学校内で、どのような有効活用が出来るか、教員間で検討をしていく。 ・コミュニティスクール事業も有効活用できるか、今後、地域関係者と協議検討する。
学校（小学校）	・4年担当しているので、地域との繋がりを大切にする学習内容として活用を検討していく。
障害者団体	・なかなか、ご近所との交流も消極的になっているので、研修の機会をつくり有効活用をしていきたい。 地域の方々や、学校教育でも活用を共有したい。
学童保育	・現場の指導員が、児童とともに有効活用できるように協議をしていく。
居場所・サロン	・早速、会員に呼びかけて活用した。 活用事例集を事前に目を通しながら、ご近所を学ぶことを意識して、時々、会員同士で、意見を交わしながら、楽しく、笑いもあり、久しぶりに、和やかな環境の中でひと時を過ごせた。
コミュニティ	・これまでの活動の中で、かるたを使用したことがないので、活用事例集に目を通しながら、自分たちのご近所を振り返ったり、思いを語れるように工夫していきたい。 かるたを定期的に活用できるように、保管場所を明確にしておきたい。 世代間交流行事の中で活用できるように、関係方面に働きかけたい。
社会福祉協議会	・これまで、コロナのために、地域福祉推進が思うようにできずに今日に至っている。サロンや居場所ボランティアに、活用事例集に目を通してもらい、参加者同士が、身近な地域のことが語られる環境づくりに努めていく。
福祉施設	・法人内に、市から委託を受けている「地域包括支援センター」があるので、これからの地域づくりに、かるたを有効活用できるように担当職員間で検討していく。
居場所・サロン	・開所日に、その都度、会員が知恵を出し合いながら、当日の運営に努力しているが、このたびのかるた活用事例集を参考にしながら、楽しい環境づくりに努力していく。
居場所・サロン	・役員会において、高齢者から学んだ若者の意見をもとにかるたが誕生した経緯や、かるた取りで競争心をあおるような活用ではなく、自由に意見を言い合えることや、高齢者の積極的な地域参加を意識できるように工夫した活用を今後心掛けたい。
さわやかクラブ	・会員は、あまり堅い話や活動には消極的であるので、活用事例集を役員がまず目を通して、ご近所について、会員も努力していることを認識していく機会としていきたい。
社会福祉協議会	・全地区対象にした、かるたの活用には限界を感じるが、居場所やサロンを立ち上げたい各地区単位での協議の場に活用し、地域福祉教育の教材として、有効活用をしていきたい。 ・かるたの貸し出しや、近隣市町との連携も検討したい。

「若者発 ご近所福祉かるた」によるご近所福祉検証」

身近な生活圏で“ご近所福祉”を大いに語る居場所 私のご近所のこれからを描くをテーマに、2024年度最後の研修会を開催した

静岡県に、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して10年。今年度までに、県内各地に300セット配布提供し「ご近所福祉」を「見える化」「見せる化」「わかる化」する学び合いに活用してきた。

今年度作成した「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、改めて、私にとっての「ご近所福祉ってなに？」を大いに語り合う「第2回公開型研修会」を令和7年2月22日（土）静岡市清水区追分「寄ってっ亭」で開催した。当日は、作成した「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに「基調報告：若者発 ご近所福祉かるた10年を検証」を報告し、参加者の自己紹介を交えながら「円卓トーク：大いに語ろう 私のご近所のこれからを描く」をテーマに、参加者は、思い思いに、短冊に、身近なご近所を綴ったり、望む「ご近所像」を書き出し紹介し合った。語れる環境でアイデア出しをした。



「静岡発 福祉文化の創造 29 年」を検証し、「2025 年度活動計画」を検討

いよいよ、2025 年度、本会の活動は、30 年を迎える。

今こそ、「福祉文化の推進」が求められる時期であることを認識し、2020 年(令和 2 年)以降今日まで、「ご近所福祉検証期」として活動を展開してきた。

改めて、本会の活動の原点を確認すると、「日本福祉文化学会」から、静岡県内で「第 11 回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受け、阪神淡路大震災発生から 1 年後(1996 年 3 月)、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を 21 世紀の礎に」をもとに「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」を研修テーマに掲げ、全国各地から 400 名余の参加者と熱く語り合った思いを形にして、「災害と福祉文化」を追求する「静岡発福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として、1996 年 9 月に結成して 29 年間の活動が間もなく終了する見通しがついた。

「静岡発(地方発)福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合型学習による理論と実践」「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3 つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。

今年度(2024 年度)は、2015 年度(平成 27 年度)活動テーマ:「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」を掲げ、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動として、「若者発 ご近所福祉かるた(赤い羽根助成事業)」の誕生につなげたプロセスと、2021 年度(令和 3 年度)作成した「かるた増刷」と「かるた利用の手引き」(赤い羽根助成事業)の取り込み、そして、今年度、更に「かるた増刷」と「若者発 ご近所福祉かるたの活用状況調査」を実施し、(協働団体:「焼津福祉文化共創研究会」)これらをつなぎながら「“ご近所福祉”こそ福祉文化」を検証した。

活動 30 年を迎える来年度(2025 年度)は、県内各地に、確実に「静岡発(地方発)福祉文化の創造」を発信してきたかを検証する活動に取り組みたい。



*有志 40 名により、「第 11 回学会現場セミナー」実現に向けた協議を積み重ねた



*「阪神淡路大震災の体験をとおして、21 世紀の福祉文化を拓く」一番ヶ瀬初代会長の基調講演



*「災害と福祉文化」議論が深まった現場セミナー

本会30年をいかに描くか「30周年記念誌」作成に向けて

「静岡福祉文化を考える会」は、結成以来、その節目ごとに、「記念誌」を発行し、常に、地域社会に「静岡発(地域発)福祉文化の創造」を発信してきた。

- 10 周年記念誌(H19.10.20 発行)タイトル「静岡発 福祉文化の実践と推進 結成 10 年を振り返って」本会結成準備から結成後、福祉文化実践活動に熱い思いを寄せてこられた家本豊氏が、1 年半かけて「調査」「機関誌(OUR LIFE)」「新聞掲載記事」等の資料、会員からの声を精力的にまとめて完成した。
- 20 周年記念誌(H28.3.31 発行)タイトル「静岡発 福祉文化の創造 20 年 これまでとこれから」10 周年記念誌をもとに、「静岡福祉文化を考える会 20 年の歩み(年表)」を作成した。
特に、平成 20 年度から平成 26 年度まで 7 年間取り組んだ「静岡県委託事業:一人でも安心して暮らせる地域づくり事業(高齢者等の孤立防止事業)」から、尊い地域づくりのあり方を「調査」「実践検証」「地域総合型研修検証」に区分しながら考察した。
- 25 周年記念誌(R3.2.14 発行)は、特に、「記念誌」としての発行はなく、令和 2 年度(2020 年度)調査研究事業「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か ご近所福祉その意識と実態検証報告書」の中で、本会活動の主要活動である「調査研究活動」と関連づけて、「25 年の歩みと調査研究活動の意義」を章立てし、その中で、「25 年の歩み(年表)」を掲載した。

ここに、30 年の節目を「静岡発 福祉文化の創造軌跡 30 年 一草創期からご近所福祉検証期を迎える」(仮称)と題して、これまでの各節目の記念誌を更に考察し、本会誕生の原点、そして、永遠の課題「福祉文化とは何か」を問い質していきたい。全体を 8 章の構成でまとめていく予定。

令和7年度 静岡福祉文化を考える会 第1回公開型研修会開催案内

本会は、29年間「静岡発 福祉文化の創造」を発信しながら、みんなで創る「ご近所福祉」を語り合ってきた。そして、静岡県に、「若者発 ご近所福祉かるた」が誕生して10年が経過した。

県内各地で、「ご近所福祉」を「見える化」「見せる化」「わかる化」する学び合いに活用してきた「若者発 ご近所福祉かるた」と、2024年度作成した「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに、本会の今年度の活動テーマ「静岡発 福祉文化の創造30年の軌跡を検証する」をもとに、昨年度に引き続き「私にとって、ご近所福祉ってなに？」を更に深めて語り合う目的で開催。（定員20名 参加費無料）

■ 開催日時 令和7年 5月24日（土）13:30～15:30

■ 開催会場 静岡市清水区追分 3-5-17 NPO法人泉の会内「寄ってっ亭」（Tel054-367-2878）

■ プログラム

13:30 開会 *開会挨拶 *オリエンテーション

13:50 基調報告「これまでの29年間の調査研究活動から、福祉文化を検証する」

14:30 休憩

14:40 ワークショップ「私のご近所を創る提言ーこれからのご近所づくりを大いに語ろうー」

15:30 閉会

■ 問い合わせ・申し込み 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚 TEL&FAX 054-624-1924

■ 事務局日誌拝見（10/16～3/1 今後の予定）

10/16	「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」作成に関する取材対応(静岡市内)
11/30	「第222回委員会」「第23回静岡県福祉文化研究セミナー」開催
12/04	西伊豆町仁科地区中区の「ご近所福祉ネットワーク」に参加（～12/05）
12/14	第8回共創社会実現研究会開催
12/16	「OUR LIFE155号」発行・配布、メール送信実施
12/20	会員宛各種資料送付（第2回公開型研修会周知チラシ送付）
12/25	11/30研究セミナー参加者に資料発送 「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握
12/30	今後の会の運営に関する協議(会計状況確認)
01/03	第2回公開型研修会（2/22開催）レジメ作成作業「30年誌」執筆作業継続
01/10	今後の会の運営に関する協議(30年誌の編集状況)
01/12	「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握 ゆうちょ銀行からのアンケート作成
01/16	第2回公開型研修会（2/22開催）に関するマスコミ各社に情報提供
01/20	第2回公開型研修会（2/22開催）に関する関係方面への情報提供(40名)
01/22	関係方面に、本会活動状況説明 「若者発ご近所福祉かるた」の活用状況把握
02/02	第2回公開型研修会（2/22開催）に関する準備作業(看板等)「30年誌」執筆作業継続
02/22	「第223回委員会」「第2回公開型研修会」開催 「30年誌」執筆作業継続
03/01	「OUR LIFE156号」発行・配布、メール送信実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 今後の予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・
03/10	「令和6年度赤い羽根助成事業実施報告書」提出
03/12	会員宛関係資料（「OUR LIFE156号」「2025年度全体会開催案内」）発送
03/29	「第224回委員会」開催(2024年度事業報告、2025年度活動計画、記念誌等)

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年の平成8年9月1日に発足し、「静岡発 福祉文化の創造」をもとに、関係団体との協働で、身近な福祉問題を活動テーマに、29年の福祉文化実践活動に取り組んできた。特に、2020年度(令和2年)以降は、「福祉文化とご近所福祉」基に、活動を具体化している。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」。

更に、「調査研究活動」「実践活動の検証」「啓発学習」の3つの具体的な柱立てにより活動に取り組んでいる。◆ブログで広く本会活動を発信中。

◆関心のある方は、下記に問い合わせを。

■会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

■問い合わせ・連絡先：424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17

NPO 法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

県民からの尊い「赤い羽根共同募金助成事業」により、協働団体：焼津福祉文化共創研究会、多くの県内の活動実践者、関係団体等の支援で「2024年度活動」は、ここに無事29年の活動を終了する見通しがついた。果たして「静岡発(地域発)福祉文化の創造」を県内各地に発信できているかである。

2025年度の活動で検証していきたい。



焼津福祉文化共創研究会QRコード



静岡福祉文化を考える会QRコード